

10 | 715 836
06-18-04

PAT-NO: JP408024104A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 08024104 A

TITLE: SLEEPING BAG

PUBN-DATE: January 30, 1996

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

HIGUCHI, KOSHIRO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

KK CAMEL

N/A

APPL-NO: JP06184131

APPL-DATE: July 14, 1994

INT-CL (IPC): A47G009/08

ABSTRACT:

PURPOSE: To hold a sleeping bag body in rolled or collapsed state when a sleeping bag is not in use, without using a storage bag or the like separately from the sleeping bag, ensure a very easy work for holding the bag body, and provide the sleeping bag having neat appearance.

CONSTITUTION: One of the lengthwise sides of a flat bag-shaped sleeping bag body is provided with a pocket 20 having an opening 21 extended over the body in a breadthwise direction and faced to the other lengthwise side thereof. In addition, a pair of slide fasteners 22a and 22b are respectively provided at the opening end 21a of the pocket 20 on the plane of the body at the side not

fitted with the pocket 20 and at such a position as corresponding to the edge 21a.

COPYRIGHT: (C)1996,JPO

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-24104

(43)公開日 平成8年(1996)1月30日

(51)Int.Cl.⁶

A 4 7 G 9/08

識別記号

庁内整理番号

A

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1 F D (全 5 頁)

(21)出願番号 特願平6-184131

(22)出願日 平成6年(1994)7月14日

(71)出願人 593220801

株式会社キャメル

東京都台東区浅草一丁目6番2号

(72)発明者 樋口 孝四郎

東京都台東区浅草1丁目6番2号株式会社
キャメル内

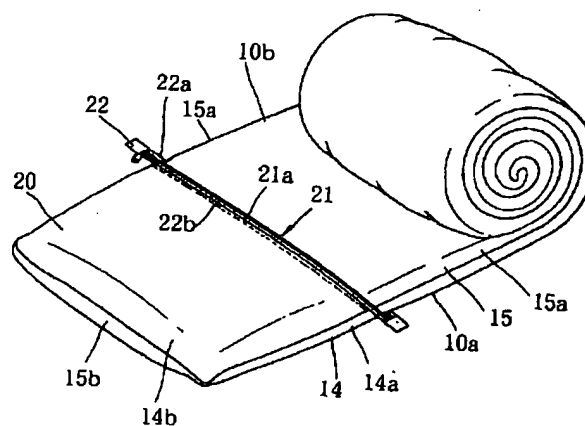
(74)代理人 弁理士 桑原 稔 (外1名)

(54)【発明の名称】 寝 袋

(57)【要約】

【目的】 寝袋と別体の収納袋等を用いることなく、寝袋を使用しないときには、寝袋本体を、丸め込み、あるいは、折り畳んだ状態で、保持させることができると共に、こうした保持作業を極めて容易に行なうことができ、しかも、外観の整った寝袋の提供。

【構成】 平な袋状とされた寝袋本体10の長手方向の一側部側の一方の面に、本体10の幅方向に互り、かつ、本体10の長手方向の他側部側に向けて開口21されたポケット20を備える。ポケット20の開口縁21aと、ポケット20が設けられていない側の寝袋本体10の面であってポケット20の開口縁21aに対応する位置とに、一対のスライドファスナー22a、22bがそれぞれ設けられている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 平な袋状とされる寝袋であって、この平な袋状とされた寝袋本体の長手方向の側部側の一方の面には、該本体の幅方向に亘り、かつ、該本体の長手方向の他側部側に向けて開口されたポケットが備えられており、

このポケットの開口縁と、該ポケットが設けられていない側の前記寝袋本体の面であって該ポケットの開口縁に対応する位置とに、雌雄をなす留め手段が設けられていることを特徴とする寝袋。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 この発明は、丸められ、あるいは、折り畳まれた袋状の本体を収納、保持するポケットを備えた寝袋に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来の寝袋は、寝袋を使用しないときには、丸め、あるいは、折り畳んで、おおむね、巾着袋状の収納袋に押し込んで、携帯したり、リュックサックに収容したり、あるいは、保管していた。そして、寝袋は、保温性、クッション性等を作り出すために、一般に、二枚の生地間に羽毛や化学繊維等の保温材、クッション材を挟み込んで構成されているので、嵩張りまた膨らみ出し易く、このため、単に丸めたり、あるいは、折り畳んだりでは、その丸めこみ状態、折り畳み状態を維持できない。このため、前記携帯、収納、保管においては、収納袋への押し込み、保持が必須とされたいた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかるに、このように、寝袋の携帯等に収納袋が必須であるにもかかわらず、この収納袋と寝袋とは別体であるため様々な不都合を生じさせていた。特に、携行品の中では小物といえる収納袋を紛失してしまうことは少なくなく、こうした場合、そのままでは嵩張る寝袋は、同種の収納手段を探して携帯等する他はない。そして、こうした他の適切な収納手段が身近にない場合には、嵩張る寝袋の不承不承の携帯等を余儀なくされることになる。

【0004】 だからといって、寝袋に収納袋を縫付けたり、結え付けたりしたのでは、寝袋全体の外観が損なわれるばかりか、寝袋使用時に煩わしく、また、寝袋の押し込みも面倒になる。

【0005】 そこでこの発明は、寝袋と別体の収納袋等を用いることなく、寝袋を使用しないときには、寝袋本体を、丸め込み、あるいは、折り畳んだ状態で、保持させることができると共に、こうした保持作業を極めて容易に行なうことができ、しかも、外観の整った寝袋を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】 この発明では、前記課題を解決するために、平な袋状とされる寝袋が、この平な

袋状とされた寝袋本体10の長手方向の側部側の一方の面に、該本体10の幅方向に亘り、かつ、該本体10の長手方向の他側部側に向けて開口21されたポケット20を備えたものとして構成した。そしてさらに、該ポケット20の開口縁21aと、該ポケット20が設けられていない側の前記寝袋本体10の面であって該ポケット20の開口縁21aに対応する位置とに、雌雄をなす留め手段、例えば一対のスライドファスナー22a、22bがそれぞれ設けられている構成とした。

10 【0007】

【作用】 この発明では、平な袋状とされた寝袋本体10の長手方向の側部側の一方の面に、該本体10の長手方向の他側部側に向けて開口21されたポケット20を備えているので、本体10を他側部側から丸め込み、あるいは、折り畳んで、ポケット20に収納し、保持させることができる。

【0008】 また、ポケット20の開口縁21aと、ポケット20が設けられていない側の寝袋本体10の面であって、ポケット20の開口縁21aに対応する位置に、雌雄をなす留め手段が設けられているので、ポケット20における本体10の収納状態を安定的に保持できる。

【0009】

【実施例】 以下、この発明に係る寝袋の典型的な実施例を図1ないし図7に基いて説明する。

【0010】 なお、図1は、実施例に係る寝袋の全体構成をポケット20が設けられている裏面10b側から示しており、また、図2では、同寝袋の全体構成を、該ポケット20が設けられていない表面10a側から示している。

【0011】 また、図3は、前記寝袋のポケット20が設けられている部分の構造を断面で示している。

【0012】 また、図4ないし図7は、前記寝袋の使用状態をそれぞれ示しており、図4は、寝袋の本体10を開口11側から順次やや丸め込んだ状態を、図5は、このように丸め込んだ本体10をポケット20内に収め入れた状態を、図6は、その状態を断面で示しており、さらに、図7は、本体10をポケット20内に収め入れた状態で該ポケット20の開口縁21に設けられたスライドファスナー22bと、本体10の表面10a側に設けられたスライドファスナー22aとを閉じ合わせた状態を示している。

【0013】 図2に示されるように、この実施例に係る寝袋は、平らな袋状とされる長袋状の本体10を主体として構成されている。

【0014】 本体10は、図3に示されるように、羽毛、化学繊維などのクッション、保温材Iを二枚の生地間に挟み込んで構成される略長形状の表側袋生地14と、裏側袋生地15とを、長手方向に亘る両側縁14a、14a・15a、15aと、幅方向に亘る一方側縁

14b・15bにおいて縫着などして、幅方向に亘る他方側縁に開口11を備える前記長袋状として構成されている。

【0015】なお、この実施例では、前記本体10の袋内に、この寝袋を用いて就寝などする者が入り込み易くするために、該本体10の前記開口11縁に接する前記表側袋生地14と裏側袋生地15の長手方向に亘る一方側14a・15aの一部に沿って雌雄をなすスライドファスナー13a、13bを設け、このスライドファスナー13a、13bを開くことにより、開口11を適宜拡大させることができる構成としてある。

【0016】また、本体10の開口縁には玉縁状部10cが形成されており、この玉縁状部10cに挿通されている紐12を引くことにより開口11を小さくして寝袋の保温性を高めさせられる構成としてある。なお、図中符号12aで示されるのは、玉縁状部10cを巡る紐12の長さを調整するための紐留めクリップである。また、図中符号16a、16bで示されるのは、雌雄をなす面状ファスナーであって、両面状ファスナー16a、16bに係合し合わせることで、閉じ合わせたスライドファスナー13a、13bが予期せず開き出して開口11が拡大してしまう事態を防止することができる。

【0017】一方、本体10の開口11に対向する側、すなわち、本体10の長手方向の一側部側の一方の面、この実施例ではこの一側部側にある本体10の裏面10bには、開口11側、すなわち、本体10の長手方向の他側部側に向けて該本体10の幅方向に亘る開口21を備えたポケット20が形成してある。

【0018】このポケット20は、図1および図3に示されるように、この実施例では、前記開口21の開口縁21aを除く三辺を前記表側袋生地14と裏側袋生地15との間に挟み込ませた状態で本体10に縫着などされている略方形の布片として構成されている。

【0019】そして、このポケット20の開口21の開口縁21aには、前記開口縁21aに沿って留め手段22としてのスライドファスナー22bが設けられていると共に、このポケット20が設けられていない側の本体10の面、すなわち、この実施例では表面10aには、前記ポケット20の開口縁21aに対応する位置に、前記スライドファスナー22bと雌雄をなす留め手段22としてのスライドファスナー22aが本体10の幅方向に亘って設けられている。

【0020】なお、この実施例では、前記スライドファスナー22bと、スライドファスナー22aは、本体10の長手方向に亘る側縁よりやや外方に両端を突き出させるように構成されており、この突き出されている両端で、各スライドファスナー22a、22bを構成するテープが相互に縫着してある。

【0021】以上の構造を備えたこの実施例に係る寝袋は、本体10の長手方向の一側部側の裏面10bに、該

本体10の開口11側に向いた開口21を備えたポケット20を備えているので、図4に示されるように、本体10を開口11側から表面10a側が上になるように順次丸め込み、あるいは、折り畳んで行くことによって、図5および図6に示されるように該ポケット20内にこのように丸め込んだ本体10を収め入れることができる。

【0022】ここで、この実施例では、ポケット20の開口21が本体10の幅方向に亘って設けられているので、本体10を単純に丸め込みなどするだけで容易に該丸め込みなどした本体10をポケット20内に収め入れることができる。

【0023】そして、ポケット20内に収め入れられた前記丸め込みなどされた本体10には、前記ポケット20が備えている一側部側の表面10aに、下げ手17が備えられており、ポケット20内に本体10を収容した状態での寝袋の携帯を容易とする工夫がなされている。

【0024】また、ポケット10内に収容された本体10は、前記両スライドファスナー22a、22bを開いてポケット10内から取り出すことにより、簡単に伸展させて、再び寝袋を就寝可能な状態とすることができる。

【0025】なお、以上に説明した実施例においては、ポケット20の開口の閉じ合わせを、雌雄をなす一対のスライドファスナー22a、22bにより行っているが、ポケット20内での本体10の収め入れ状態が安定的に維持できるように開口21を閉じ合わせることのできる留め手段22であれば、例えば、雌雄をなす一対の面状ファスナーや、一対のホック、スナップボタンなどの適宜の留め具を用いて、開口21の閉じ合わせを行う構成として構わない。

【0026】また、前記実施例ではポケット20を本体10の裏面10b側に設けているが、本体10の表面10a側に設けても良く、この場合には、裏面10b側にポケット20の開口縁に設けられているスライドファスナーなどに対応するスライドファスナーなどを設け、本体10を裏面10bが上になるように順次巻き込みなどしてポケット20への本体10の収め入れを行なう構成とすれば良い。

【0027】

【発明の効果】この発明では、平らな袋状とされた寝袋本体10の長手方向の一側部側の一方の面に、該本体10の長手方向の他側部側に向けて開口21とされたポケット20を備えているので、寝袋本体10と別体の収納袋などを何等要することなく、本体10を前記他側部側から丸め込み、あるいは折り畳んで、ポケット20に収納することにより、この丸め込みなどされた本体10を保持させることができる。

【0028】また、特に、この発明では、ポケット20の開口が本体10の幅方向に亘って形成されているの

5

で、本体10を前記他側部側から単純に丸め込み、あるいは、折り畳んでゆくだけで、該本体10をポケット20内に収め入れることができる利点がある。

【0029】またポケット20は、寝袋本体10の長手方向の一側部側の一方の面に一体に備えられているので、このポケット20が寝袋の外観を煩雑にし、また機能性を損なわせることもない。

【0030】さらに、ポケット20の開口縁21aと、ポケット20が設けられていない側の寝袋本体10の面であって、ポケット20の開口縁21aに対応する位置に、雌雄をなす留め手段が設けられており、この留め手段を留め合わせることで、ポケット20における本体10の収納状態を安定的に保持できる特長を有している。

【図面の簡単な説明】

【図1】実施例に係る寝袋の斜視図である。

【図2】実施例に係る寝袋の斜視図である。

【図3】図1におけるA-A線断面図である。

6

【図4】実施例に係る寝袋の使用状態を示す斜視図である。

【図5】実施例に係る寝袋の使用状態を示す斜視図である。

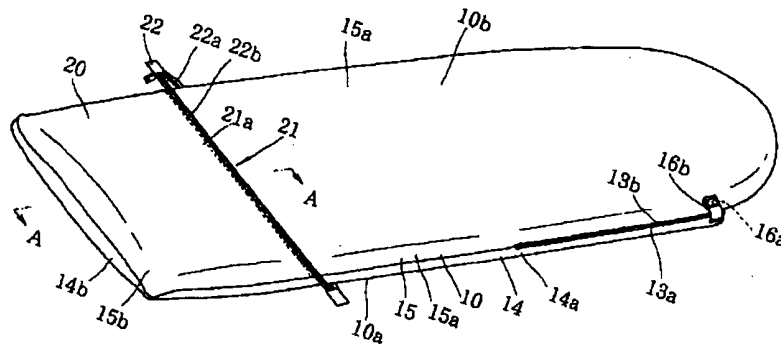
【図6】図5におけるB-B線断面図である。

【図7】実施例に係る寝袋の使用状態を示す斜視図である。

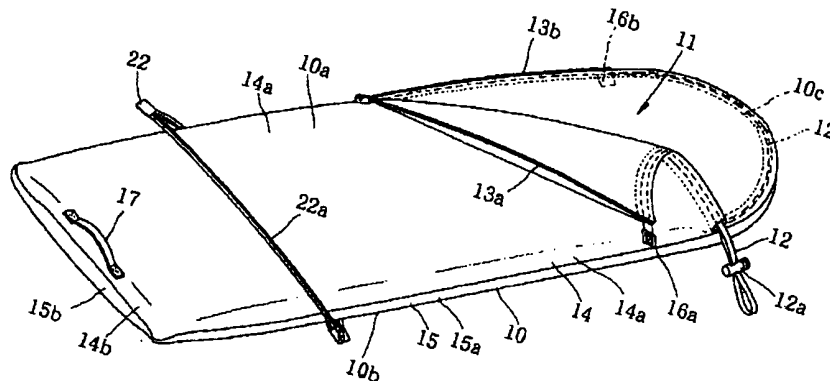
【符号の説明】

- 10 本体
- 11 開口
- 12 紐
- 14 表側袋生地
- 15 裏側袋生地
- 20 ポケット
- 21 開口
- 22 留め手段
- I クッション材

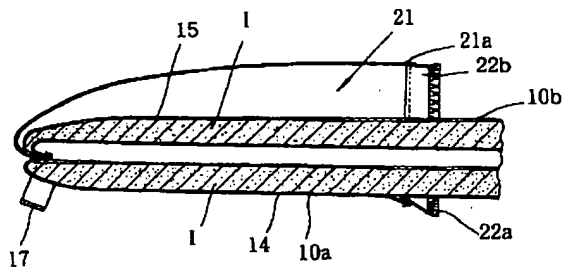
【図1】



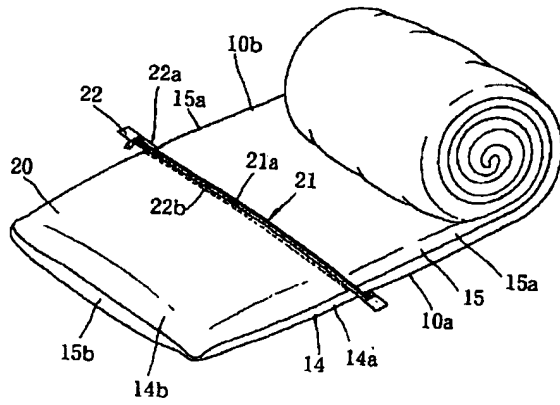
【図2】



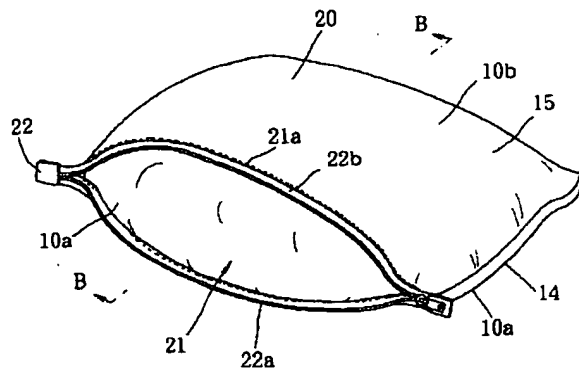
【図3】



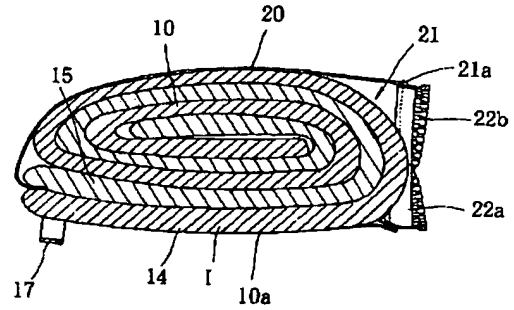
【図4】



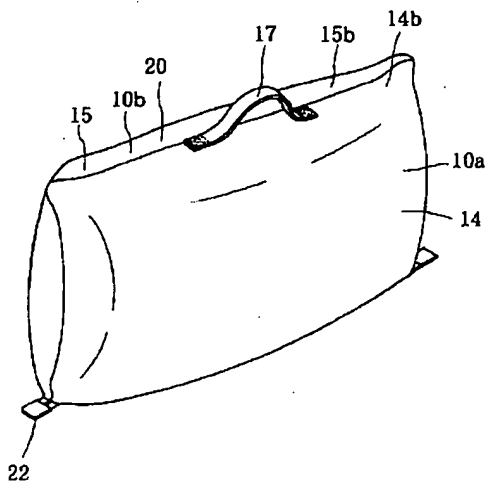
【図5】



【図6】



【図7】



lagios_ml

<http://www.micropat.com/5657731.PDF>
06/17/04 04:49 PM



(51) Int.Cl.⁸
A 4 7 C 27/00

識別記号

F I
A 4 7 C 27/00G
EA 4 7 G 9/02
9/06A 4 7 G 9/02
9/06G
H

審査請求 未請求 請求項の数1 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平9-68896

(22) 出願日 平成9年(1997) 2月14日

(71) 出願人 597038817

齋藤 千春

東京都港区六本木1丁目9番地35 六本木
ビュウタワー405

(72) 発明者 齋藤 千春

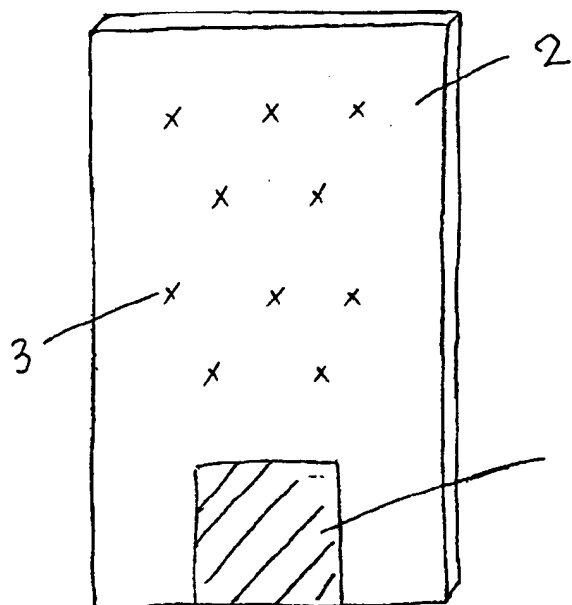
神奈川県川崎市高津区梶ヶ谷2丁目6番地
2 エスベランサ403

(54) 【発明の名称】 クッションふとん

(57) 【要約】

【目的】 うすめのふとんや毛布などにポケットをもうけることによって、クッションとしても防寒用のかけるものとしても利用できるものとする。その結果、広げると厚みがないので洗濯が容易である。また、家の中の利用だけにとどまらず、車に携帯したり、ピクニックやスポーツ観戦などの防寒用にも利用できる。

【構成】 一辺の長さが長方形のうすいふとん2の長い方の一辺の1/4の長さに相当する正方形のポケット1を、うすいふとん2の短い方の一辺とぴったりあわせ中央にもうける。



【特許請求の範囲】

【請求項1】うすいふとんや毛布の一部にそれら全体が収納できるポケットをもうけたことを特徴とするクッションふとん。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、クッションの形をしていながら、広げるとふとんや毛布のように防寒に役立つ、クッションとふとんや毛布に関する。

【0002】

【従来の技術】クッションはソファなどの上において、インテリアとしての役目と背もたれとして利用するのが主流である。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】クッションにもたれソファなどでくつろいでいるとき、仮眠をとったり肌寒く感じ、しばしば毛布やうすいふとんなどが必要になる。くつろいでいるにも係わらず、わざわざ席を立てて用意しなくてはならないというわずらわしさがある。また、クッションはわたが厚く、洗濯すると乾きにくいため洗えないという欠点がある。

【0004】この発明は、従来のクッションがもつ機能性だけでは補えなかった欠点を満たし、うすいふとんや毛布のように防寒用としても利用できるクッションふとんを提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】そこで本発明は、うすいふとんや毛布の一部に、図1で示すように全体が収納できる大きさのポケット1をもうけたものである。

【0006】

【作用】本発明では、うすいふとんや毛布をクッションとして使用する際には、図1で示したポケット1の中に全体を折りたたんで包み込むように収納する。このポケットは、全体がおさまる大きさに設定してあるので無理なく折り込み収納することができる。また、防寒用として使用する際には、手軽に広げることができる。さらに、広げた状態であればうすいので洗濯も手軽である。

【0007】これにより、家の中ではもちろん、車に携帯して背もたれやひざかけとしても利用できる。また、ピクニックや冬のスポーツ観戦にも最適である。

【0008】

【発明の実施の形態】次に本発明の一実施例を図面を参照しながら説明する。図1は、うすいふとんにポケット1をもうけたものである。長方形のうすいふとん2の短い方の一辺と正方形のポケット1の一辺をきっちりあわせポケット1を中央に配置する。ポケット1の大きさはうすいふとん2の大きさや中綿の厚みに応じて変更し収納可能な大きさに設定できる。ポケット1の一辺の長さの目安は、うすいふとん2の長い方の辺の1/4程度が

適している。

【0009】結び目3は、うすいふとんの中綿が動かないように糸で固定している。

【00010】図2は、ポケット1を表側に出してうすいふとん2をふたつ折りにする。図3と図4は、うすいふとんをポケット1の反対側に折ってみつ折りにする。図5はポケット1を表に返す。図6は、ポケット1の中にうすいふとんの残りの部分を折り込んで収納する。

【00011】この実施例では、最終的にポケット1の中に全体を折り込んで収納してしまうようにする。

【00012】結局、この実施例はうすいふとんにポケット1をもうけることによって、全体を手軽に折りたたんで収納することができる。

【00013】なお、本発明はクッションふとんの材質はうすいふとんに限定されず、その大きさや厚さも任意である。また、ポケット1の表になる部分には、デザインに趣向をこらすことが望ましい。

【00014】

【発明の効果】以上、本発明のクッションふとんは、うすいふとんや毛布にポケット1をもうけ、このポケットの中に収納することで手軽にクッションとして利用したり、広げてかけるものとして利用することができ、狭いスペースを有効活用できる上、広げれば厚みがないので洗濯も簡単で清潔に保つことが可能となっている。

【00015】これにより、家の中ではもちろん、車に携帯して背もたれやひざかけとしても利用できる。また、ピクニックや冬のスポーツ観戦にも最適である。

【00016】また、図6に示すようにポケット1を表に返したとき、おもて面になる部分には、好みや年齢にあったデザインが可能である。子どもには動物やキャラクターのデザイン、スポーツファンにはスポーツ選手の顔やサッカーチームなどのロゴやマスコットのプリント、女性には刺繍やパッチワークキルトなどデザインで楽しむことが可能となっている。

【図面の簡単な説明】

【図1】うすいふとんにポケット1をつけた図である。

【図2】ポケット1が外側にくるようにうすいふとんをふたつ折りにした図である。

【図3】うすいふとんをポケット1の反対側にみつ折りにした図である。

【図4】うすいふとんをポケット1の反対側にみつ折りにした図である。

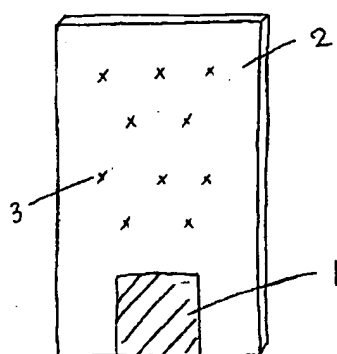
【図5】ポケット1を表に返した図である。

【図6】ポケット1の中にうすいふとんの残りの部分を折り込んだ図である。

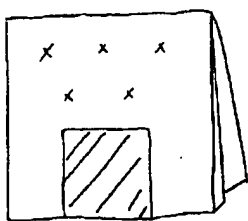
【符号の説明】

- 1 ポケット
- 2 うすいふとん
- 3 結び目

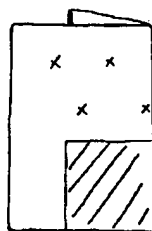
【图1】



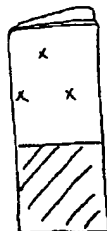
【图2】



【图3】



【图4】



【图5】



【图6】



THIS PAGE BLANK (USPTO)